

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1275800223
法人名	有限会社弥生・トータル・プランニング
事業所名	グループホームぬくもりの家
所在地	千葉県山武郡大網白里町永田956-5 (電話) 0475-72-5193

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価確定日	平成20年1月20日

【情報提供票より】(19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤3人, 非常勤8人, 常勤換算	6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 ~ 36,000円	その他	食費36,000円 + 水光熱費・管理費9,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	81 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	錦織メディカルクリニック
---------	--------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の住居を改築したホームで、静かな住宅街の一角にある。庭園の大きな梅の木や、赤く色づいた紅葉が安らぎを与える。民家改築型の家庭的な雰囲気が入居者に安心感を与え、かつ自立した生活のための設備環境も整っている。代表者、管理者、職員は一体となり、入居者と同じ視点に立って暮らしを共にしている。また、看護師が2名在籍し、医療体制も整っている。代表者や管理者は、地域社会との関係性を重要視し、さらに良好なものとするための積極的な取り組みを続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	“居室の環境整備”は、入居者や家族等と相談し改善が見られた。使用頻度の少ない物は、敷地内にある倉庫に保管している。“定期健康診断の支援”は、すべての入居者に対し実施された。“緊急時の手当”についてはマニュアルに基づく訓練が実施された。“継続的な研修の受講”は、千葉県社会福祉協議会や千葉県医師会などが主催する研修会に積極的に参加し、来年からは年間研修計画も作成する予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解し、真摯に取り組んでいる。評価の結果はホーム全体で協議し、改善活動を実施している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、ホームの行事に併せて開催し、町の担当者、民生委員、ボランティア、近隣住民が主な参加者である。議事は、ホームの運営方針や料金の説明、会議の目的、活動報告などである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。また、玄関に意見箱を設置し、意見苦情なを解決する体制が整っている。実際には、意見箱への投函はなく、家族等の面会時に口頭で意見を伺っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民からの介護相談に応じたり、老人会の行事や運動会などに入居者と共に積極的に参加している。しかし、地域との理解及び関係性はまだまだ十分なものとはいえず、今後さらなる取り組みが期待される。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念である“笑顔でその人らしい暮らし”をイラストで表現し、リビングの目の付きやすい場所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	“笑顔”の理念をすべての職員が共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住民からの介護相談に応じたり、老人会にも参加している。地域清掃や空き缶拾いなどに入居者と職員が積極的に参加しているが、今後もさらに交流の範囲を広げて生きたいと考えている。		運営推進会議や日常的な付き合いの中から、ホームと地域との交流について、引き続き検討していくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解し、真摯に取り組まれている。評価の結果はホーム全体で協議し、改善活動を実施している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームの行事に併せて開催し、町の担当者、民生委員、ボランティア、近隣住民が主な参加者である。議事は、ホームの運営方針や料金の説明、活動報告などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム会議を町とともに立ち上げ、2ヶ月に1度、町内の介護事業所とともに勉強会を開催し、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月1回ホーム便りを作成し、暮らしぶりやイベントなどの情報提供を行っている。また、健康状態や職員の異動については変化が生じた際に適宜、電話等で連絡を行っている。金銭管理については、出納帳を作成し、来訪時に確認と捺印をいただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。また、玄関に意見箱を設置し、意見苦情などを解決する体制が整っている。実際には、意見箱の投函はなく、家族等の面会時に直接ご意見を伺っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員は1ヶ月間程度、現任職員について業務を学ぶことになっており、入居者に負担がかからないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員には、研修を受ける機会が確保され、千葉県社会福祉協議会や千葉県医師会が主催する、認知症に関する研修会や感染症に関する研修会に積極的に参加している。また、新人職員に対しては、OJTによる教育が確実に行われている。しかしながら、計画的な人材育成の仕組みに改善の余地がある。		管理者や職員の知識、力量のばらつきを把握して、個別計画的に研修予定を組むことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム会議には特定の幹部職員が参加するのではなく、すべての職員に参加資格があり、その日の勤務を考慮して参加者を決定している。また、千葉県のグループホーム協会にも入会し、サービス、満足度の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者や家族と相談しながら、体験入居や一時帰宅などを行い、徐々に馴染めるよう、あせらずゆっくりを心掛けて、支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事や掃除等、日常生活全般の知恵を教授してもらうなど、生活の中で入居者個々が望む役割を担っていただき、職員とともに支えあう関係性を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の生活の中で知り得た入居者の希望や意向は、個人記録や連絡ノート、ミーティングなどの場で情報共有し、介護計画に反映している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のスタッフ会議で出てきた課題とケアのあり方を、職員は十分理解した上で、入居者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの短期目標を掲げ、期間を定めて評価・見直しをした記録があまりない。</p>		<p>緩やかな変化が長く続くと、とかく見直しをしないケースが発生しがちなため、こまめな見直しをした記録を残すことが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の突発事故に際し、その求めに応じて臨機応変にホームが対応できるよう職員の配置が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	持病等のある入居者は訪問診療を受けている。その他の入居者は、1ヶ月に一度の割合でホームの提携医院で受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナル期にある入居者はいないが、看護師の職員が2名おり、家族やかかりつけ医とよく話し合っ対応することになっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者本人や家族には、尊厳に配慮した言葉かけや対応を徹底している。個人情報の書類の取扱いにも気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした見守りを中心にした介護の下、入居者一人ひとりのペースに応じた生活をしてもらうよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には茶碗拭きなどのお手伝いをしてもらい、会話をしながら入居者・職員共に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めて入浴を行っている。		できるだけ入居者一人ひとりの希望に応じた入浴ができるよう、工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	決して無理強いせず、出来る人には掃除、縫い物、食事の準備、茶碗ふきなどの場面を作り出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、外食や地域の行事に参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りや近隣住民の協力で、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練は行ったが、実施記録やマニュアル、緊急連絡網等、文書の整備が不十分である。		連絡網作成や職員一人ひとりの役割を明確にしたマニュアル作りなどが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者一人ひとりの状況を十分観察し、料理の形状や量の調整を行っている。副食は必ず3品以上で栄養のバランスを考え、必要な場合は個人記録で食事摂取量を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家をそのまま残した木造建築がやわらかな温かみをかもし出している。近隣とも調和が取れており、普通の家そのものである。一人になりたい時は庭に出たり、ベランダで日光浴が楽しめる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者の馴染みの品が持ち込まれ、使わないものは別棟の物置に収納され、必要に応じて出し入れされている。		